

目 次

1	提案趣旨	1
2	提案内容	1
	(1) 年間計画に位置付けられた職員研修において	
	ア 出張報告「道徳教育推進教師等研修会」（平成29年 6 月15日）の伝達	
	イ 「板書の工夫」	
	ウ 「評価の手引き」作成に向けて	
	エ 「信頼ある評価」に向けて	
	(2) 道徳教育推進教師を中心とした常時研修	
	ア 職員資料「今月の美田中の道徳教育」の発行	
	イ 職員資料「明日への扉～道徳教育推進教師だより～」の発行	
	ウ 職員図書等の資料の充実	
	(3) 教師個人や学年単位、学校全体での教材研究	
	ア 研究授業	
	イ 「教材研究ノート・評価補助簿」	
	(4) 成 果	
3	今後の課題	12

「特別の教科 道徳」に向けての職員研修の実践

提案者 小山市立美田中学校教諭 蛭間 知子

1 提案趣旨

本年度は、中学校における「道徳科」元年である。移行期間においては、「議論する道徳」や「評価」に対する教員の不安感もあり、研修の必要性を強く感じていた。この期間を「やってもよい」ではなく「やらなくてはならない」と捉え、道徳教育推進教師として早め早めの準備をすることで不安感解消に努めようとした。ただし、昨今の教育事情をふまえると他にも研修すべき課題も多く、毎月の職員研修において「道徳教育」ばかりを扱うわけにもいかない。そこで、常時研修や個人での研修も加え、各教員の「教師力」の向上を図ろうと考えた。目に見える成果としては、教職員反省における道徳の項目の数値上昇が挙げられる。そのほか、職員間で道徳に関する会話が增多していることも挙げられる。放課後の職員室で授業研究会並みの議論が見られたときには、係として確かな手応えを感じた。今回は、昨年度から取り組んできた本校の職員研修の実践と成果を紹介する。

2 提案内容

(1) 年間計画に位置付けられた職員研修において

ア 出張報告「道徳教育推進教師等研修会」（平成29年6月15日）の伝達

- 実施日 平成29年9月27日
 - ねらい 新学習指導要領についての理解を深める。
 - 内 容 新学習指導要領、「考え、議論する道徳」について
 - 方 法 研修会配付資料を用いての道徳教育推進教師による講義形式
 - 成 果
 - ・道徳の時間の大切さを再認識することができた。
 - ・新学習指導要領への理解が深まった。
 - 課 題
 - ・教員の学習指導要領の認知度がそれほど高くない。
 - ・さらに研修を重ねる必要が大いにある。
- ※道徳に関する職員研修を充実させる必要性を感じ、年間計画に位置付けられた研修以外にも研修の場を設定しようとするきっかけとなった。

イ 「板書の工夫」

- 実施日 平成30年12月10日
- ねらい 板書する上で工夫した点や反省点、疑問点を持ち寄って協議することを通して、今後の授業に役立てることができるようにする。
- 内 容
 - ・各担任が工夫した点や反省点、疑問点を発表
 - ・質疑応答
- 方 法
 - ・道徳の授業後の板書を各担任が撮影

- ・校務用パソコンの共有フォルダに保存
 - ・係がパワーポイントにコピー
 - ・職員室自席にて、各自がパソコン画面を見ながらの研修
- 成 果
- ・各担任が効果的な板書を意識して教材研究を進めることができた。
 - ・お互いの板書の仕方や工夫を知り、刺激を受けたことにより、板書計画も含めた教材研究に一層励もうという雰囲気を作ることができた。
- 課 題
- ・外部講師等の指導助言者がなく、職員間の情報交換・協議に終始した。指導助言をいただき、今後に役立てるための機会の設定が必要。
 - ・学年で指導案検討を重ねたため、板書も似通ったものとなり、様々なパターンの板書の研修には至らなかった。今回のような特別な研修を設けなくても、日頃から教材だけでなく、板書についても教師間で話題にしたり、個人で研修を重ねたりして、レベルアップを図ることが必要である。



配付した画像 各担任の工夫が見られる

ウ 「評価の手引き」作成に向けて

I 「道徳の評価」

- 実施日 平成30年9月26日
- ねらい 次年度から始まる「道徳科」の評価に関する基本的な考え方や方法についての理解を深める。
- 内 容
 - ・『教育研修シリーズ』「特別の教科 道徳」（道徳科）～評価について～（H30.5 小山市教育委員会 学校教育課 教育研究所）
 - ・『道徳教育』（H30.7 明治図書）
 - 通知表記入にかかわるQ & A
- 方 法 道徳教育推進教師による講義形式
- 成 果
 - ・評価に関する概略を理解することができた。
 - ・評価は、自分自身の授業の評価でもあるという意識をもって、日々の授業作りに取り組もうという意識を高めることができた。
- 課 題
 - ・どのような文章表現にしたら良いか、どのような手順で評価するか、今年度のうちに本校の方針をまとめることが必要。
 - ・一層の研修が必要。

II 「美田中学校 評価の手引き」趣旨説明

- 実施日 平成30年12月10日
- 内 容
 - ・趣旨説明：評価の方法や所見の記入例をまとめた「美田中学校評価の手引き」を今年度中に作成し、次年度のスムーズなスタートに備える。
 - ・教員の冬季休業中の「宿題」として、通信票所見の文例を2つ以上考える。
 - ・小山市で採択された教科書を読み、題材や内容項目にあった所見文例を考える。

III 「特別の教科 道徳」の評価に向けて

- 実施日 平成31年1月30日
- ねらい 妥当性・信頼性の高い道徳の評価をするための共通理解を図る。
- 内 容
 - ・「美田中学校 評価の手引き」の検討
 - ・通信票所見文例の検討
- 方 法 グループ協議
- 成 果
 - ・新年度にあわてることがないよう準備をすることができた。
 - ・グループ協議の際に、評価のことだけではなく、道徳の時間そのものに関する話題にも発展し、ベテラン教員から若手への助言の機会にもなった。
 - ・各自が書籍等で研修したり、他校や小学校の取組の情報収集をしたりするなど、協議に向けて準備することを通して、評価に関する理解が深まった。

1 評価資料収集の例

① ② ノートの記述が正確でないが、たゞそれだけで済むとされるべきで、正確な
③ ノートの記述が正確でないが、たゞそれだけで済むとされるべきで、正確な
④ ノートの記述が正確でないが、たゞそれだけで済むとされるべきで、正確な

10月20日 第(12)回 「あるシシ行きの女性」

C- (12) 報告

番号	姓名	
1	公公公公	
2		
3		調停仲裁のことを思い出し、早くこの急務について「社会貢献」と考えていた。
4		
5		仕事とは「生きがい」と自覚をもちてきた。
6		
7		
8		
9		仕事とは、ワークシートに「自分を成長させてくれるもの」と書いてあった。
10		
11		
12		仕事とはアのこと口
13		
14		10(1) 生活ノート「結婚で何だかこうについて考えた。生活に比べて、調停のこととか、生きがいのある生き方について最終に考えていこうと思った。」



全員分でなくてよいので、 $n/2 = n/2$ なので、毎度ある評価のもと
にしないものです。

各配列が先頭ノードに接した時、ファイルに格納したとして連続的に
書きこぶこと。

$$f = f(\mathbf{z}) = 2$$
[illegible]

1学期の道徳を振り返って 合部合部合部 合部合部

○ 次のうち、中表に属した・影入した・たくさん発生した・多い・全盛して
全盛しているなどを記号して、ベストを並び、順位を書きなさい。
また、その理由や中表でないことを書きなさい。

日	題名	想ふこと	明記
1/4/18	私にできること	身近な加害行為	
2/4/18	くさのあいでのふと私	私の生き方とは	
3/5/18	心に響く歌	本音の思いやりとは	
4/5/23	ばなしの女史	修業ある生き方をしたいと	
5/6/20	成長で想ふこと	みんな違ってみんないい	◎
6/6/27	神の一言	生命の尊厳	
7/7/4	静かなる心	きまじく愛別は何のため	
7/7/11	私に14歳	自分磨き	!
9/7/18	47歳に成長を求めて	好きなものを愛用	

1	<p> 6月11日の夜中に盗難したことがあり、同じだと感じました。でも「私」はやりたことを見つけて自分自身をしています。私もぜひそれに對しい事で頑張りたいです。彼がしたと覚えていたけど、自分の振る舞い場所を見つけたらとプラスに考えるようにしようと思います。心が軽くなりました。 </p>
---	---

1	...
2	...
3	...

1. 他者の道徳的証言を全かして、自分が成長したと感ずること
.....

道徳の授業で考えたことを言葉や態度で表している人を教えてね。
〇〇さんが、△△さんに□□とずっとあげていたことが素晴らしいなと思いました。



ベトナムに寄与する国務院、あると生後なら一生懸命に
たれた経験でしよう。その会、中絶後、(1)の補助金と
も合わせて、年間に生かすといふので、

$$i = (2) = 2$$

学年	2年教材名	3年教材名	評価文例	立派数
A 主として 自分自身に 関すること	13 父との約束	9 悪い虫のオムライス	自分の行動に責任を持つことの大切さに気づき、読書に行動よりととる気持ちを持つことができた。	48
	28 黒神様の元次	18 満員電車に立ち寄り 上野公園	自分を振り返り、今後の生き方を考える必要が認められました。『ホリトワール』の授業では、真心をもって読者に接することが自分の行動に責任をもった生き方につながるということを実感することができました。	95
	1 鳥のふくろのふくろのふくろ	8 泣きと読む	男の生き方や生きに、これからの生きに生かせることを考えることができた。道徳ノートに記述からは、今までの生きを反省し自らを律して生きようとする意欲が感じられました。	87
	34 贈えあれば	28 黒神様スマイル 悪い方式で	「」の授業では、欲求と良心、2つの心の対話を演じることで、心の扉を開けられないために必要なことを考えることができた。	60
			スマートフォンを授け、2年生のマナーについて、ふだんと意識に意欲を燃やすことができた。読書ある使用方式について自分の意見や意見を述べ、意見を述べることができた。	78
			おれについて考えた授業では、その重要性だけでなく、自分が読書習慣を身につけているおれさつが周囲にどんな影響を与えているかという点まで、考えを深めることができた。	84
	10 ジャッジとチャレンジ	1 三十日の金メダル	登場人物を自分と置き換えて考え、授業で学んだことをもとに理想とする自分の生き方を思い出し、表現していきなさいという意欲が高まりました。	71
			スポーツ選手の努力を誇り、その努力や努力の姿に、自分の個性をさらに伸ばしていこうとする気持ちをもつことができた。	61
			夢を叶えるために、どのような努力や努力を続けたいのかを真剣に考えることができた。道徳ノートに「おれさつ」という言葉がとて印象的でした。	79
	15 読書あると読書あると読書あると	32 スポーツの力 読書あると	読書は自分自身のこととしてとらえ、真剣に考える様子が見られました。登場人物の生き方と自分の生き方とを比較し、前向きに努力を重ねようという意欲が高まりました。	78
		「」の授業では、主人公の生き方に、自分も高い目標を掲げようという意欲をもちました。その意欲は、親友にも感染をあたえました。	66	
		話し合ったことをもとに自分自身を見つめ直し、「ロロロロな自分になりたい」といふ強い思いをもつことができた。	55	
19 ヒーロー物語と読書と 山中先生	14 町工場から宇宙へ	登場人物に自分の姿を重ね合わせ、理想実現のために必要なことは何かを真剣に考えていました。授業を通して自分の生き方を見つめ、よりよい生き方を目指し、強い思いをもつことができた。	86	
25 ものづくり	28 五輪を日本に迎える 夢をかな	山中先生との研究に対する意欲に燃え、自分のこれからの生きにどう生かしたらよいのかを考えました。「」という意欲がとて印象的でした。	74	
		読書を通して感じた男の個性の強さに、男の個性の強さを生かして生きていこうという強い思いをもつことができた。	66	

完成した「美田中学校 評価の手引き」の一部

エ 「信頼ある評価」に向けて

○実施日 令和元年 6 月12日

○ねらい 初めての道徳の評価に向けて、共通理解を図り、準備を始めるにあたり疑問点を解決する。

○内 容

- ・実際に所見を書いてみよう。
- ・各担任が補助簿や生徒のノートを持参し、2人分の評価を考える。
- ・文章の検討

○方 法 グループ協議

○成 果

- ・評価に関する共通理解を図ることができた。
- ・評価に関して、年間の見通しが立ち、教師の不安解消につながった。
- ・実際に所見の文章を作ったことで自信につながった。

○課 題

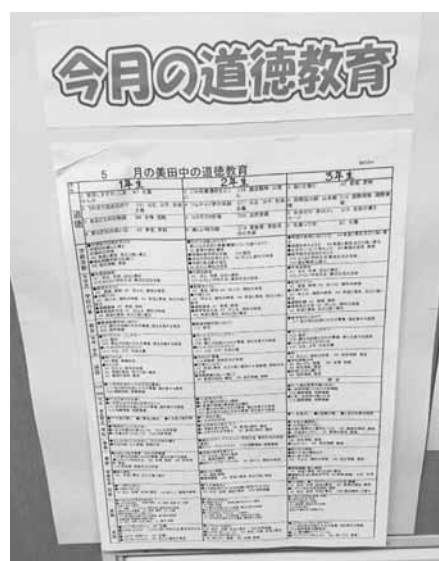
- ・「大きくくりなまとまりを踏まえた評価」についての理解が深まっていない。
- ・限られた字数での適切な表現に関しては不安が残った。生徒の良さや成長の様子を伝えられるよう、一層の研修や授業研究が必要。



グループ協議の様子

(2) 道徳教育推進教師を中心とした常時研修

ア 職員資料「今月の美田中の道徳教育」の発行
職員に配付するだけでなく、職員室出入り口
ドアに掲示して常に意識できるようにしている。



○発行（平成30年4月から）のきっかけ

- ・平成29年度学校評価のうち教職員の反省において「他領域との連携」の項目の評価が高くない。

○方 法

	A	B	C	D
1 学期末	15.4%	84.6%	0.0%	0.0%
2 学期末	53.3%	46.7%	0.0%	0.0%
学 年 末	54.5%	45.5%	0.0%	0.0%

- ・別葉を月別に分け、3学年分をまとめたものを職員に配付する。
- ・職員室出入り口にも掲示し、常に全教育活動において道徳教育を意識できるようにする。
- ・裏面には、研修資料を掲載する。

例：教材研究ノートの写し、『道徳教育』（明治図書）の記事、研究授業の資料など

○成 果

- ・平成30年度の教職員反省
「他領域との連携」に関する項目の数値が高くなった。
H29年度末 A評価 54.5% → H30年度末 A評価 86.7%
- ・裏面の研修資料を見て、職員間で意見交換が増えた。
- ・若手の教員が資料にあった手法を授業でチャレンジし、その成果や反省を職員間で話題にすることもあった。

○今後の構想

- ・教職員反省の結果にもあるように、全教育活動において道徳教育を意識できるようになってきている。関連のある授業の様子や学校行事の一場面を写真等で紹介し、さらに意識を高めたい。

○発行（平成31年4月から）のきっかけ

- ・昨年度から使用し始めた「道德ノート」の使用状況が担任間で差が大きく、様々な活用例を示そうと考えた。
- ・道德の授業を教師が楽しみになるくらい教材研究を行うことにより、生徒も道德の授業がさらに楽しみになり、道德教育の一層の推進が図れると考えた。

○方 法

- ・道德教育推進教師の授業の様子を紹介

例：教材研究ノート、板書例、トリオ学習、YES NO カード、心情円盤など

- ・裏面は、道德教育推進教師の学級の生徒へ配付している「道德通信」を掲載
- ・できるだけタイムリーに。翌日か翌々日には発行。

○成 果

- ・道德の授業、年間35時間実施の意識を高められている。
- ・具体的な指導例を示しているので、授業の改善に役立っている。
- ・たよりを参考に若手教員が道德通信を始めた。
- ・職員間で話題になり、放課後の職員室がミニ研修会になっている。

○今後の構想

- ・他の教員が行う研究授業や準備段階のプレ授業の紹介
- ・「ローテーション授業」の提案と実際の授業の紹介

ウ 職員図書等の資料の充実



教科書に掲載されている題材の部分に目印



評価関連書籍を各学年分準備

(3) 教師個人や学年単位、学校全体での教材研究

ア 研究授業

○平成30年9月5日

- ・共同訪問プレ授業
- ・全職員参観
- ・ビデオ撮影
- ・紙面での感想
- ・助言や授業者と参観者の個別の議論



○平成30年10月4日

- ・共同訪問研究授業
- ・授業研究会：分科会方式だったため全職員が参加することはできない。そこで、研究会の記録をまとめたものを各自での研修の参考になるよう配付した。

○平成30年11月28日

- ・美田中学校「心を育てる学校教育の日」全クラス道徳授業参観
- ・題材は学年で統一
- ・指導略案作成のための検討会を各学年で実施
- ・指導略案集を作成し、参観者に配付。
- ・学区内小学校の教員も参観し、感想を書いていただき、授業者にフィードバックする。



指導略案集の一部



授業の様子

イ 「教材研究ノート・評価補助簿」

○導入の目的

- ・教材研究に時間をかけられていない状況の改善のため。
- ・年間35時間実施の意識付けのため。
- ・発問の精選や発問の言葉の選び方に至るまで、授業を組み立てる過程を記録としての残し、授業改善に役立てる。
- ・「信頼ある評価」を行うことと説明責任を果たすため。

○成 果

- ・教材研究の記録を残すことにより、授業改善に役立っている。
- ・授業の記録を残すことにより、評価の際に生徒の成長を見取ることができる。
- ・評価に関する説明責任を果たすことができる。

○課 題

- ・活用方法を教員同士で意見交換したり、お互いのノートを見せ合ったりして授業改善に役立てる機会を設けたい。
- ・取組を継続することにより、「教師力」の向上につなげたい。



ウ 各種研修会への参加

○小山市道徳教育拠点校 授業研究会への参加

- ・事前に資料、指導案を読んで参加。
- ・研究会に参加しない教員とも議論してから実際の授業を参観するようにしている。
- ・帰校後、研究授業や研究会の内容を報告。参観者のメモがある指導案等資料の配付。

○ナイトカレッジ、ステップアップカレッジへの参加

- ・勤務時間外の自主研修。新しい実践例を学ぶ機会となった。

(4) 成 果

ア 「美田中学校 力点と具体策反省」(学期末に実施する教職員の反省) より

		評価	H29年度 学 年 末	H30年度 1 学期末	H30年度 2 学期末	H30年度 学 年 末
(1)	年間指導計画に基づいて道徳の授業を実施する。	A	81.8%	60.0%	75.0%	86.7%
		B	18.2%	40.0%	25.0%	13.3%
		C	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		D	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(2)	1 時間 1 時間の道徳の授業を大切にする。	A	81.8%	73.3%	75.0%	93.3%
		B	18.2%	26.7%	25.0%	6.7%
		C	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		D	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(3)	他領域との連携を図る。	A	54.5%	66.7%	75.0%	86.7%
		B	45.5%	33.3%	25.0%	13.3%
		C	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		D	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

教職員の反省の数値からは、学校全体で道徳を大切にする雰囲気が醸成されていることがわかる。(3)の他領域との連携では、大幅に数値が上昇しており、「今月の美田中の道徳教育」発行による効果と言える。

イ 職員アンケートより

- ・特に「評価の手引き」の検討、所見の文例の研修が有効。
- ・評価に関して不安があったが、研修を重ねるにつれ、具体像が見えてきた。
- ・評価に関して、先を見通して研修を設けているので安心できる。
- ・「今月の美田中の道徳教育」「道徳教育推進教師だより」については、具体的な事例を紹介していて、若手教員の研修に役立っている。自分もチャレンジしてみたいという意欲につながっている。

ウ 実践を振り返って

本校の教職員には業務多忙の中、次回の研修までの「宿題」を課すこともあり、大変だと感じたこともあっただろうと思う。道徳教育の重要性、新学習指導要領への理解、評価について研修を重ねるにつれ、職員室で道徳の話題が増えてきた。道徳の授業後に職員室に戻ってきて、教師同士が生徒の反応を嬉しそうに語っている姿を見ることができ、研修の手応えを感じた。

「道徳教育推進教師だより」を参考に、学級の道徳通信を始めた若手教員もいて、意識の高まりを感じる。

今年度から「道徳科」となったが、特に慌てることもなく授業を実施することができている。昨年度から計画的に研修を重ね、教職員の意識を高めてきた成果と言える。

3 今後の課題

(1) 継続的な研修

一定の成果をあげた一連の研修であるが、各個人の「教師力」を高めるために、方法に工夫を加え、さらに研修を重ねることが大切であると考えている。

(2) 外部講師等による指導・助言の機会の設定

振り返ってみると、校内研修ということで校内で完結する研修に終始した。研究授業の際には、外部から指導助言者を招いたが、道徳教育推進教師が行うものが多い。評価に関しても授業改善に関しても、指導助言をいただき、視野を広げたり理解を深めたりすることが必要であると考えている。

(3) 効率的かつ有用な研修方法の工夫

「働き方改革」が叫ばれる中ではあるが、研修は教員の義務であり、「教師力」向上のためにも生徒のためにも時間をかけて行いたいものである。しかし、様々な課題があり、道徳教育を始め特定の課題にばかり時間をかける訳にはいかない。年間計画に位置付けられた自分の担当の数少ない研修の機会に、できるだけ多くのことを効率よく、わかりやすく、さらには「明日から実践してみよう」と教師自身が意欲を高められる研修が求められる。紙ベースの資料ではなく、しかも大がかりな準備もいらない、校務用パソコンの画面を見ての研修は大変有効であった。少ない準備で最大の効果をあげる一助としてＩＣＴ機器の活用を今後も実践していきたい。

また、研修の課題を係が一存で設定してきたが、疑問に思っていること、他の教員の意見を聞いてみたいことなどのアンケートを実施し、教員の実態に即した内容の研修を設定することも考えたい。